2.G.2.- 防衛利用（熱伝導流体）（Military Applications（Heat Transfer Fluid））（PFCs）

１．排出・吸収源の概要

１.１ 排出・吸収源の対象及び温室効果ガス排出メカニズム

防衛用電子機器の熱伝導流体として PFCs が使用されており、レーダーやミサイル誘導システム等に使われるこれらの PFCs はクローズドシステムに充填されていることから、PFCs の入れ替えや補充を行う必要はないと考えられるため、主に機器の製造、保守、特に廃棄の際に PFCs が排出される。

なお、日本国内の防衛用電子機器（レーダー、ミサイル誘導システム、電子対抗手段（Electronic Counter Measures：ECM）、ソナー、水陸両用車両、監視航空機及びレーザー等）での PFCs の使用状況が把握できていないため、PFCs の排出量は算定できていない。したがって、本排出源の算定結果については、「NE：未推計」として報告している。

１.２ 排出・吸収トレンド及びその要因

記載事項なし。

２．排出・吸収量算定方法

記載事項なし。

３．算定方法の時系列変更・改善経緯

表 1　初期割当量報告書（2006 年提出）以降の算定方法等の改訂経緯概要

	2015 年提出
排出・吸収量算定式	2006 年 IPCC ガイドラインの適用に伴い、新たに対象となった本排出源の排出状況の確認
排出係数	－
活動量	－

（１）初期割当量報告書における算定方法

2006 年 IPCC ガイドラインから新たに追加された排出源であり、初期割当量報告書では算定していなかった。

（２）2015 年提出インベントリにおける算定方法

2006 年 IPCC ガイドラインにおいて、本排出源が新規排出源として追加されたため、算定方法

を検討したが、国内における排出実態が把握できなかったため、算定方法は確立できていない。